

西国巡礼慈悲の道

西国第三十二番

織山

観音正寺

「ともしび」

山主 岡村瑞應

最近ある雑誌の写真を見て、私は大きな悲しみを抱いた。その写真とは、富士樹海の中でただ一人、孤独に自死した男性の姿が撮影されたものである。その男性の姿には、世の中の苦しみの中から喜びや、束の間の幸せを見いだせる事が出来ず重責に耐えきれず自ら死を選んだのであろう。家族や仲間自分の悩みや苦しみを打明ける事も出来なかつたのであろう。昨年

自殺者が三万人を超えた。その一方で百歳以上の方々が二万人以上おられる。私は平成十八年から世界に点在する仏教の聖地から法灯を日本へ請来する巡礼を始めた。平成十八年は中国天山山。十九年はチベット・ラサのラモチエ寺。平成二十年はインド・ブッダガヤの法灯をすべて陸路と海路で日本へ持ち帰った。灯を集めて何の為になると言う人もいたが、平成二十

年には三つ法灯が観音様の宝前に灯った。その法灯は本堂復興の恩恵を伝える為の法灯、そして多くの人々に幸せを与える為の「ともしび」。この灯には我々人間の命の限りがない。永遠に灯され続け五十年、百年と時が過ぎれば、その小さな光が人々に安らぎを与える。その灯が多くの人々の心に分灯され、少しでも善を積むことを望みたい。また、必死になって最後まで自分の命の火を灯し続け、生きる事が先祖や命を与えてくれた親への最大の供養である。



観音風光

◆お寺から参拝者へのメッセージ
琵琶湖の東に位置する織山（きぬがざん）の山上にある寺院にして、西国最難所の札所である。それだけに山上から見る万葉の景色は、観音信仰と相まって、聖地としての安堵を感じる。織山の周囲には、歴史に培われた見所や独特の食が楽しめる。当山常設の案内をご参照ください。

西国第三十二番

織山

かんのんしょうじ
観音正寺

単立寺院

御本尊／千手観世音菩薩 開基／聖徳太子

あなたとうと みちびきたまえ かんのんじ

とおきくにより はこぶあゆみを

主な年中行事

- 一月一日～七日 修正会
- 二月三日 星まつり 尊星王供
- 三月二十一日 彼岸中日法要
- 三月二十八日 織山回峰行 山開き
- 五月八日 花まつり
- 五月二十二日 阿僧祇劫三法灯護持傳承法要
- 八月十八日 千日会法要
- 九月二十三日 彼岸中日法要
- 十二月十三日 御本尊 御身拭い法要

〒521-1331 滋賀県蒲生郡安土町石寺 2 番地
TEL 0748-46-2549 <http://www.kannon.or.jp>
納経時間 午前 8 時～午後 5 時

仏教用語一口解説

海潮音とは

『観音経』に「妙音観世音、梵音海潮音」とあります。梵音とは尊い仏の教えの声で、仏の声を称えていったもので、海潮音は、音の大きいのを海潮に譬えていったものです。仏の真理の言葉は、大きく遠くまで伝わることを意味しています。私たちは何時も観音様の大きな慈悲の心に包まれているのです。

西国三十三所札所会ホームページ <http://www.saikoku33.gr.jp>

西国霊場にご参拝の時は納経帳や白衣を忘れずにご持参ください。2回目以降はご参拝の印として重ねて納経印をいただきます。